

刊行にあたって

校長 岡 留 秀 一

研究紀要「あゆみ」第8号の刊行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

平成30年に高等学校学習指導要領が公示され、平成34年度から学年進行で実施されます。これまで学習指導要領は、時代の変化や子どもたちの状況、社会の要請等を踏まえて改訂されてきました。今回の改訂は、「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から学習指導要領の改善が図られています。

また、障害の有無にかかわらず教育をするというインクルーシブ教育の広がりや、障害者差別解消法が施行され、障害者への合理的配慮の提供が義務付けられたことや、高等学校における通級による指導が制度化されたことなどから、高校でも特別支援教育への対応が急務となっています。

本校は、全日制、定時制、通信制の3課程が併置されています。定時制・通信制課程は、昭和23年から設けられている制度で、勤労青少年に高校教育を受ける機会を与えるものとして発足しましたが、社会環境が大きく変化し、学校が担うべき役割も多様になっています。その為、新しい時代にふさわしい定時制・通信制課程の充実・改善が求められています。本校においても、不登校経験者や特別な支援や配慮を必要とする生徒が多く在籍しており、高校教育の質の確保、向上に向けた取組だけでなく、学び直しや困難を抱える生徒への支援も必要となっています。同様に、全日制にも多様な生徒が在籍し、具体的な対応が求められています。これまでは、専門家による校内研修や巡回相談を活用するなどして、支援や配慮を必要とする生徒への理解を図り、対応してきたところです。

今年度「高等学校における特別支援教育推進のための拠点校整備事業」の研究指定を受けました。特別な支援や配慮を必要とする生徒を、特別な場のみで指導・支援するのではなく、学校全体ですべての生徒の自立と社会参加を目指すとして取り組んでいるところです。本研究紀要を御覧いただいた皆様から忌憚のないご意見やご指導等をお寄せいただければ幸いです。また、多忙な中、原稿を寄せていただいた先生方、編集に携わっていただいたすべての方々に心から感謝して序文とします。